



講座紹介

日光医療センター麻酔科では近隣医療機関と連携し、様々な日光地域の医療サービスに貢献しております。「麻酔」というと皆様はどのようなことを思い浮かべるでしょうか。我々は、日程が決められた待機的手術の麻酔だけではなく、昼夜問わず緊急手術にも対応し、手術室で行われる外科的治療を円滑に進め、皆様やその家族の健康をお守りしております。具体的には、手術室に入る患者様の不安な気持ちを抑える目的や、全身麻酔において手術侵襲を和らげる目的で薬を投与し、眠っているような状態にすることで、治療中の長くつらい時間を、あっという間の出来事にさせることも可能となります。また全身麻酔に併用して、背骨の間から糸のような細い管を入れる硬膜外麻酔や、下半身だけが麻酔される脊髄くも膜下麻酔、針で薬剤を局所に注入することで手術後の痛みを軽減させる神経ブロックを状況により使い分け、痛みを和らげコントロール致します。痛みの種類や強さに応じて、座薬や注射薬等の薬剤を使い分け、安全で良質な手術後の疼痛コントロールも目指しています。このように我々麻酔科医師は様々な麻酔技術や薬剤を駆使して、脳や体に生じるストレスが最小限となるように、また合併症が起きないように注意深く観察し、手術中や手術後に生じる様々な苦痛から、手術で病気と闘う患者様の心と体を守るため、手術室にて日々の安全・安心を陰ながら支えております。

また、「ペインクリニック外来」とも呼ばれる麻酔科外来では、慢性疼痛と呼ばれる腰痛や帯状疱疹等の、痛みを伴う病気に対して、主に神経ブロックと呼ばれる注射技術を用いて、外来診療や入院による治療を行っております。

ところで皆様は「緩和ケアチーム」という名前をご存じでしょうか。がんによる痛みや気持ちのつらさで困っている入院療養中の患者様に対して、当院でも緩和ケアチームが関わることがあります。このチームには看護師や薬剤師やリハビリテーション技師、栄養士らとともに、我々麻酔科医師も在籍しており、痛みを抑える薬を上手に使用する工夫を行ったり、副作用対策や安全対策等をチームで検討したり、気持ちのつらさを話してもらうことで改善できる場所を探し、食事やリハビリの改善や促進、在宅での医療環境を整えるお手伝いや、地域の先生方との連携を行い、主治医らとともに体や心のケアに尽力しております。地域の在宅医療を担う先生方と共に、日光地域の緩和医療の改善に努めております。

また、皆様が救急車を呼ばれる際に駆けつけてくれる、主に病院外で活動している救命救急士の気管内挿管実習医療機関として、当院の麻酔科医師はこれまで多数の救命救急隊員を受け入れ、専門的な指導を行ってきました。これにより、必要時に安全で確実な救命活動を担える日光地域で働く救命救急士の育成にも貢献しております。

大学外での活動として、緩和医療やペインクリニック、麻酔に関わる講演会や学会、地域の在宅医療を担う看護師やソーシャルワーカーやケアマネージャー等を対象にした在宅医療を考える会への参加および主催や、医師や医療者に向けた疼痛を軸とする講習会などにも指導者として積極的に関わり、疼痛緩和を軸としたこれからの地域医療を担う人材育成活動を行っております。

当院は平成 28 年から栃木県で 10 番目の災害拠点病院に登録され、災害時の傷病者の受け入れ対応やDMAT 隊の派遣業務にも関わっており、災害時にも手術や治療の役割が大きくあり、その際には我々麻酔科医師もそれに呼応するように体制を整え活躍する使命があり、少ない人数であることから、病気が怪我をしないように日々心掛けて生活しています。ニュース等で高齢化率という言葉聞いたことがありますでしょうか。65 歳以上の高齢者の割合が人口の 7%を超えた社会を高齢化社会と呼び、14%を超えると高齢社会、21%を超えると超高齢社会と呼びます。日本では 2010 年には高齢化率 23%を超え超高齢社会を迎え主要先進国では世界一。2023 年には 29%となり、小さな国を含めてもモナコに次いで世界 2 位で今後も急速に増加していくことが分かっています。これに伴い手術が必要な方々も年々増加しております。皆様のかけがえのない命を守るため、いつでも緊急手術が可能となるように人材や薬剤や道具をそろえて日々準備をしておりますが、人材も道具も手術室も有限ですので、手術室はそういう意味において公共性の高い場所であると考えています。効率よく手術室を安全に使用していくことがこれからは一層必要となります。日光地域でも高齢者は増加しておりますので、高齢者でも安全に麻酔を行い、短時間で良好に目覚めていただき、次に待つ患者様が順次手術室が使用出来るようにするための研究を行っております。様々な薬の違いにおいて我々は麻酔からの覚醒直後における意識の状態の変化について研究しております。また、がんに苦しんでおられる患者様がより快適に過ごせるようにするための研究を始めようと考えております。皆様やご家族が麻酔科医師に会う際には、これらのことを思い出していただき、麻酔科医師の仕事や研究に是非ともご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



旧病院で行われたオープンホスピタルにおける近隣住民の方々への病院内訪問、健康チェック、講演会、救急蘇生法、院内ミステリーツアーへの参加していただきました。(写真 1.2)